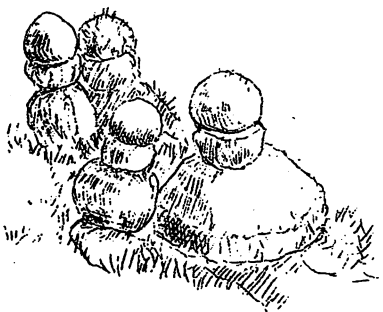


塚の大松の舟をつないでいたそうだが、東の住宅地の上に  
残る海に出る道、三嶋谷などから海に出る道は今尚残つ  
ている。また宮路宅と三嶋谷の通行路も立派である。

いずれにしてもこの地には、戦争の目的でやって来た  
加久屋、清藤の一族がゆって来たが、はじめの目的を果  
たすことができず、しずかにこの地に住みつき、かつて  
の軍用金も殆んどこの地で生活に使われたものと思う。  
しかし、これといつて大きな遺跡のないのは、世を忍ぶ  
人となり、ひそやかに生活していたからではあるまいか。  
昔はかなりあちこちに五輪塔などがあったようだが、藪  
の中埋もれたたり、畑の開墾整理などで、今は殆んど失  
つてしまつたようである。

以上で伝説は終るわけであるが、加久屋新左工門の墓  
は内浦谷に、娘の墓は姫古谷に残り、道耆、道田の遺跡  
は宮路谷に残っている。尚内浦寺跡には、何かがあると  
の言い伝えもある。



この話日明治三十八年頃、当時八十才を越した老人が  
私の祖父に話してくれたもの、その老人も子供の時その  
祖父が、子供の時祖父から聞  
いた話の受けついで、正確な  
村の歴史というわけにもい  
まいが、ともかくも今からさ  
つと七、八百年前にさかのぼる  
昔物語である。(おあり)

三嶋谷の五輪塔群

草臥うらぼうと荒れた畑のほし、石垣  
に片よせて無難作に積み重ねられ、それ  
苔がつき、つる草がからんで、この伝承  
物語りに連なる人の墓ではあるまいか。

感想

河内の伝承を支持する

羽柴

弘

私に近ごろ五回目竹野浦河内歩きをして、前掲の吉  
田老の物語に関連する古跡探訪を重ねた。そのポイント  
を、簡単に並べて見よう。

① 三嶋谷の五輪塔群 附近は古く時代の集落のあったところと思  
われる。谷おひながら土地が広く、谷水が豊富である。

② 道耆が海に投げ入れた岩 小幡校の裏の磯にある。初めは道  
の門の近く、波うち際に、直立の形であったのを移したとい  
う。

③ 宮路谷の石の祠 吉田老は、これが道耆道田兄弟をまつるもので  
あるという。祠の安はさほど古くなく、文字も何一つ書かれてな  
い。しかし、いれおくりけす祠である。

④ 内浦谷の印塔 笠だけではあるが、道のまがり角、畑の隅にある。  
様式は古く、室新時代の宝篋印塔である。庶民の供養塔とい  
考えられない。

⑤ すぐ近くの二つの五輪塔 蜜柑畑の石垣の中に二基、はれこまれたよ  
うな格好で並んでいる。一つはメートル一つは九センチほど、夫婦が  
兄弟の墓とも思われる五輪をまつた塔。これと一般百姓の漁師  
の墓とは思えない。

⑥ 灘の長瀬家裏の五輪塔群 木立の中に地輪五、水輪四、火輪五  
ほどが、古くはかたはかたではあるが、長瀬家がかたはかたはまつている。  
この墓についての伝承は全くない由であるが、水輪が最大なのは、  
直径が六〇センチほどある。これで五輪するならば、高さ一メートル六〇  
ほどのすばらしいものにかなる。室新時代初期あるいはもっとさ  
かりの頃かではないか。これも渡氏の墓とは思えない。

⑦ 地名について 姥が谷、娘たが念などは何かによるものと考え  
られる。(また外にもあるだろう。)

以上が、河内伝承の裏付けになるものではあまいか。  
(以上)